

暮らしを支える地域公益活動を紹介します。

キラリ★社会福祉法人

神戸市垂水区社会福祉法人連絡協議会
(ほっとかへんネットたるみ)

高齢者のふれあい喫茶で話を聞く法人職員。何気ない話の中に困りごとが潜んでいることもある

福祉なんでも相談

垂水区内32の社会福祉法人が協働し、災害復興住宅支援や子どもの居場所づくりなど、さまざまな活動を行う「ほっとかへんネットたるみ」。

今回は、平成30年6月にスタートした「福祉なんでも相談」について紹介します。(今月号と次月号は、社会福祉法人連絡協議会※の活動を取り上げます)



はじめは地域住民の声を聴くことから

ほっとかへんネットたるみは、社会福祉法人の職員が、高齢、障害や児童といった分野にとらわれず、ソーシャルワークのスキルをもって地域の困りごとに対応することを目的に平成27年3月に設立された。

地域のニーズを知るため、ふれあいのまちづくり協議会の協力を得て約500世帯にアンケートを実施したところ、ひとり暮らし高齢者やシングルマザーから「誰にも相談できない」「頼る人がいなくて不安」といった声が多く寄せられた。

これを受け、社会福祉法人の強みを生かした取り組みを検討し、地域に専門職が出向く「福祉なんでも相談」を実施することにした。

高齢者のふれあい喫茶に相談員を派遣

平成30年6月から月1回、地域の高齢者のふれあい喫茶で「福祉なんでも相談」をスタートした。高齢分野とその他の分野の職員と一緒に訪問し、家族の介護や自宅にごみがあふれる住民の話など、日常会話の中から困りごとや悩みを聴いている。職員がその場で解決できなくても、制度や相談窓口を伝え、民生委員・児童委員や区社協に相談をつなげており、ごみの問題に悩む住民の訪問につながったこともある。

ふれあい喫茶の参加者からは、「自分から相談に行くのは敷居が高いけれど、福祉の専門職の人が話を聞いてくれるのは、安心感があり嬉しい」といった声が寄せられている。

より地域に密着した活動を目指す

現在、「福祉なんでも相談」は1カ所でモデル的に取り組んでおり、今後は、区を複数のブロックに分け、より地域に密着した活動を目指していく。

ほっとかへんネットの活動に参画し、対人援助の技術を生かした実践を地域で展開することで、社会福祉法人の職員一人一人の意識が高まり、スキルアップや各法人の地域における公益的な取り組みの活性化につながる。

ほっとかへんネットたるみの代表・岸田氏(社会福祉法人すいせい)は、「誰一人取り残されない社会を実現するために福祉があります。法人同士のつながりと専門性を活用し、ソーシャルワークの原点に戻った活動をしたいと考えています」と今後の展望を語った。

「福祉なんでも相談窓口相談員研修」を実施し、相談援助のスキルを高めている



※ 社会福祉法人連絡協議会

兵庫県では「ほっとかへん」を合言葉に、市区町域で社会福祉法人が協働して、地域の生活・福祉課題の解決に向けて取り組んでいる。

ほっとかへんネットたるみ
事務局：社会福祉法人すいせい
TEL：078-704-3340